令和２年度 （2020 年度）

学校関係者評価　報告書

学校法人巨樹の会
八千代リハビリテーション学院

本報告書は、学校法人巨樹の会　八千代リハビリテーション学院の職業実践専門課程認定に関わる学校関係者評価委員会による令和２年度の評価結果を記したものである。

令和 3 年 7 月 31 日

学校長　　片山　薫

副学校長　　豊島　宇茂（評価実施責任者）

＜目次＞

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1）学校関係者評価の目的、方針

2）学校関係者評価委員

3）学校関係者評価委員会の開催

4）学校関係者評価の実施方法

2. 学校関係者評価の項目、内容

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像

項目Ⅱ　学校運営

項目Ⅲ　教育活動

項目Ⅳ　学修成果

項目Ⅴ　学生支援

項目Ⅵ　教育環境

項目Ⅶ　学生の受け入れ、

項目Ⅷ　財務

項目Ⅸ　法令等の遵守

項目Ⅹ　社会貢献、地域貢献

1. 学校関係者評価の概要と実施状況

1）学校関係者評価の目的、方針

① 関係業界・職能団体、高等学校、卒業生、学生保護者、地域住民などの学校関係者が、本校の自己評価の結果を評価することで、その妥当性を確認し、客観性・透明性を高めることを目的とする。

② 学校関係者評価により、本校の学校運営・教育活動における課題を明確にし、その意見を参考に学校運営の改善を図る。

③ 学校関係者評価は、本校の自己評価を基に、「専修学校における学校評価ガイドライン」、および本校の学校評価実施規程に則り実施する。

2）学校関係者評価委員 （令和2年度）

※敬称略、◎印委員長

委員氏名	所　属	選出区分
◎ 市角　雄幸	習志野市市議会議員	地域委員
奥田　裕	帝京科学大学東京理学療法学科	評価経験委員
小林　誠	医療法人静和会　浅井病院	卒業生委員
斉藤　剛史	成田富里徳洲会病院	企業委員
田中　朋美	千葉みなとリハビリテーション病院	企業委員
矢島奈穂美	千葉県立八千代東高等学校	高校委員

3）学校関係者評価委員会の開催

第1回委員会　　日　時:令和２年 10 月２日(金)15:30 ～ 17:30

場　所:八千代リハビリテーション学院　基礎医学教室

第2回委員会　　日　時:令和３年３月９日(火) 18:30 ～ 20:20

場　所:ZOOM システムによる開催

4）学校関係者評価の実施方法

令和２年度の学校自己評価に基づき、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性について、下記のポイントに留意しながら評価を行った。

① 自己評価の結果および内容が適切かどうか

② 課題やその解決への方向性が適切かどうか

③ 学校の運営改善に向けた取り組みが適切かどうか

④ 学校の運営に関する助言、提言

2. 学校関係者評価の項目、内容

学校関係者評価、自己評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による 4 段階の評定基準にて実施する。
学校関係者評価では、自己評価の評定が適正であるか審議を行い、あわせて学校運営に関する意見や提案を受けて検討する。

【評定基準】

Ｓ ： 十分に達成している。　（達成度が高い）
Ａ ： 達成している。　（概ね達成しており、明らかな改善は要しない）
Ｂ ： 達成がやや不十分である。（若干の改善を要する）
Ｃ ： 達成が不十分である。　（不適合がある、明らかに改善を要する）

項目Ⅰ　教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

教育理念・目的・目標等は、学生便覧・パンレット・Web サイト等で広く公表し、学生、受験生、関係者、教職員において共有できている。学則、カリキュラム、シラバスも情報公開しており、特に今年度は、リモートや Web サイトでの情報発信、周知を進めた。

課題

教育理念・目標等を反映した、改訂カリキュラムによる教育課程の構築、運用を図る。

今後の方向性、方策など

養成施設指定規則改訂に応じた新カリキュラムによる教育課程への移行 2 年目に向けて、カリキュラム運営を教育理念・目標の観点から確認する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

新型コロナ感染症による業界のニーズや臨床実習の受入れなどの変化について
⇒ 臨地での実習は25%に縮小して、臨床思考に重点を置いた学内実習に切り替えて、実践的学習を補完。実習受け入れの意向は明確で継続して臨地での実習を検討する。

小項目　Ⅰ－1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか。

■自己評価：Ｓ　■学校関係者評価：適正
■コメント：学校案内、ホームページ等で広く公表、周知している。

小項目　Ⅰ－2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界（高校、病院、実習施設など）に周知されているか。

■自己評価：Ｓ　■学校関係者評価：適正
■コメント：ホームページ、刊行物等で、広く公表、周知している。今年度は Web サイトによる情報発信を進めて受験者に対する周知も進み、順調な学生募集となった。

小項目　Ⅰ－3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか。

■自己評価：Ｓ　■学校関係者評価：適正
■コメント：臨床実習、就職、教育課程編成委員会等から把握したニーズに対応する目標や人材育成像を教育課程に反映させている。特に臨床実習を受け入れているグループ病院と密に連携をとり、そのニーズに応えて多くの学生が就職している。

項目Ⅱ　学校運営

総括

コロナウイルス対策が求められる中でも、運営方針に沿って、適正、円滑な学校運営を行い、卒業・進級をはじめ、学生の修学への支障は生じていない。

課題

ICT 教育の充実、学校運営の情報管理システムの構築が進んだが、次年度に向けてはより効率的な運用を図る。

今後の方向性、方策など

リモートやオンラインを活用した学校運営体制の維持、情報管理システムの効率的な運用により、学内の管理運営業務をより円滑にしていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

情報管理システムの導入により、学校運営業務の効率化が図られたことに関して
⇒授業や教室の割り振り、教職員の勤怠管理や連絡周知などがスムーズになっている。

小項目　Ⅱ－1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：運営方針を策定して、部門会議、学内委員会・情報管理システムなどで教職員に伝達・周知し、方針に沿った業務推進であることを確認している。

小項目　Ⅱ－2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：就業規則、業務分掌に則り、業務を推進。意思決定は学校運営会議、学科会議、学内委員会等で行い記録、伝達・周知を確認している。情報管理システムの導入により、意思決定から周知まで遅滞なく行われている。

小項目　Ⅱ－3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：学事サーバーによる成績や情報管理により、メール等での学生への速やかな情報発信、出席確認などを行い、緊急時は学生に加えて保護者へのメール連絡も可能な体制を整備した。また、新たに導入した情報管理システムの運用により、学事運営、施設設備管理、勤怠管理業務の効率化も図られた。

項目Ⅲ　教育活動

総括

卒業資格である国家試験受験資格に見合う教育活動に努め、学修成果にも表れている。ディプロマポリシーに則り、更なる教育活動の向上に取り組む。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂に対応した教育課程の実践を確認する。授業評価結果の活用、教員個々の教育・指導力の育成を図る。

今後の方向性、方策など

令和３年度は、1･2 学年で改訂カリキュラムによるシラバスの運用と授業運営を進める。ICT 教育、リモート・オンライン授業に関してなど、教育力向上の取組みを継続する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

授業評価はオンライン授業の混在など授業形態が異なり分析、活用が難しい状況。教職員の研修は受講機会・頻度が減少しており、オンラインでの研修参加も進めていく。

小項目　Ⅲ－1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：教育課程の編成・実施方針は学校運営会議で確認の上で策定している。教育課程編成委員会での検討内容や意見も審議の上で策定している。

小項目　Ⅲ－2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：コロナウイルス感染対策を実習受諾のカマチグループ病院と検討・工夫して、学生一人 180 時間の臨地実習を確保して、学内での臨床教育体制も整備した。

小項目　Ⅲ－3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：A　　■学校関係者評価：適正

■コメント：学生からの授業評価、教員間の授業評価ともに前期、後期にそれぞれ実施。今年度はリモートやオンライン授業の導入や感染防止下での実技演習などの制約もあり、引き続きその分析や活用は継続課題となっている。

小項目　Ⅲ－4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：国家試験を考慮し、初年次より重点科目を位置付け、卒業年次には学修指導、成果判定、対策学習を計画的、体系的に行い、成果につながっている。
今年度は臨地での臨床実習が制約されたが、学内において臨床的思考に重点を置き、国家試験の実践応用問題に対応する学習機会を充実させた。

小項目　Ⅲ－5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価：A　　■学校関係者評価：適正

■コメント：教育指導力を学科責任者が評価して、専門技能の教授力と併せて資質向上を図る目的で、年２回の面談を行っている。継続して教育や専門分野の研修受講や研究継続を推奨するも、今年度は研修中止や Web 開催への変更が続いており、今後の研修の在り方、受講方法について検討する。

項目Ⅳ　学修成果

総括

進級・卒業、国家試験、就職・職業実践を目指す教育および修学支援を行い、理学療法学科作業療法学科ともに進級、卒業率が改善し、国家試験合格率も向上している。

課題

初年次教育、専門職へのモチベーション向上、能動的学習や生涯教育につながる学修方策、退学率の低減への取り組みなど、更なる充実を図る。

今後の方向性、方策など

初年次教育、キャリア教育などを継続して職業実践につながる修学支援を進める。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学生の就職に関する動向について

⇒多数の求人施設があり、就職率 100%だが、求人施設数は昨年度に比べて約２割減少しており、早期の就職活動が求められる。作業療法学科は求人倍率が特別に高く早期に内定しており、卒業生が多い理学療法学科の早期からの就職活動支援を図る。

コロナウイルスによる国家試験受験や対策学習への影響について

⇒感染防止策をとり、グループ学習や個別指導もほぼ例年通りに実施。感染者や濃厚接触者は国家試験を受験できないため、試験前の約３週間はオンラインで学修支援を行い、結果は良好であった。

退学者が昨年度より約３割減少している状況について

⇒年度当初より臨時休校となり、5・6 月は登校制限での遠隔授業など学生との関わりは制約されたがオンラインでの授業や面談を速やかに行い、出席や学習意欲は保たれた。昨年度と比べ学業成績は良く、留年・退学も少なく、次年度につながる結果と思われる。

小項目　Ⅳ－1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：グループ病院への就職支援ほか、多くの求人情報の掲示、就職説明会やセミナーなどの就職活動支援を行い、開校以来 15 年 100%の就職率が続いている。

小項目　Ⅳ－2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：国家試験を考慮した授業内容や学修方策、模擬試験実施、国家試験対策学習を行い、全国平均を上回る高い合格率を継続している。

小項目　Ⅳ－3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：登校制限により初年次教育は制限されたが、ポータルサイトの活用やオンライン面接でのサポート、リモート授業の推進のなか、欠席や退学者は低減した。

小項目　Ⅳ－4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価：A　　■学校関係者評価：適正

■コメント：ボランティアなどの社会的活動を把握して支援体制は継続するが、ほとんどのイベントが中止となり、実際に活動する機会はなかった。

項目Ⅴ　学生支援

総括

クラス担任制により学生とのコミュニケーションや修学支援、保護者との連携を密に図り、高等学校とは入学前のキャリア教育・進路支援などを連携して行っている。

課題

初年次教育を充実させ、モチベーション低下やストレス・精神的な不安を抱える学生へは早い段階から保護者も含めた相談や支援、効果的な介入を行う。

今後の方向性、方策など

学生の修学状況に関する報告、連絡、相談を速やかに行い、学生へ関わる教職員、部門での統一した、適切な対応を早期から行う。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学生相談室の利用状況について

⇒学生の希望や学校からの案内により利用を開始。申し込みは学生が行い、本人の了解のもとで学校との情報共有を行い、家族も含めた修学支援を行っている。

教育訓練給付制度対象講座の指定について

⇒新規に指定講座となった作業療法学科で１名が申込。理学療法学科（昼間コース）は高校からの入学が多く申込者はないが、社会人経験入学者の支援の一環としていく。

コロナウイルスによる制約が大きい中で、年度を通して、全体的に学生支援が行われており、良好な結果につながっていると評価できる。

小項目　Ⅴ－1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：担任を中心とした支援体制で、15 年連続で就職率 100%を達成している。

小項目　Ⅴ－2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：担任の定期面談から、保護者や学科責任者を含めた面談も実施している。臨床心理師による相談室、カウンセリングを月２回開設している。

小項目　Ⅴ－3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：連絡や面談等で連携を図り、就学や進級・卒業が懸念される場合は保護者同席で面談を行う。緊急時の保護者へのメール連絡も可能な体制をとっている。

小項目　Ⅴ－4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：定期的な高校進路室への訪問によりニーズを把握している。年度下半期は感染症対策のもと、高校での進路授業やガイダンスへの協力も例年通りに行った。

小項目　Ⅴ－5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：修学面の支援のほか、寮や通学定期などの生活面、奨学金相談窓口を整備し、特待生制度など経済面での支援制度も設けている。今年度より作業療法学科も教育訓練給付金制度対象講座の指定を受け、社会人への支援となった。

項目Ⅵ　教育環境

総括

施設、設備・機器、学校保健・学校安全、臨床教育体制、防災体制などを整備して、学校評価で毎年確認して、その充実を図っている。

課題

防災、危機管理体制に関して、マニュアル更新や防災避難訓練の充実を図る。

今後の方向性、方策など

防災・危機管理マニュアルにおいて、感染症防止マニュアルの更新を行う。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

国家試験対策学習の環境整備について

⇒感染防止対策とともにグループ学習や個別指導を実施、オンライン学習も活用して教育環境の整備を行い、成果がみられている。また、学習機会が制限される可能性が早期の学習行動を促した面もあり、今後の学習計画でも考慮すべき点と思われる。

コロナウイルス感染者や濃厚接触者が発生した場合の教育環境について

⇒感染防止のための学内の環境整備、教職員の体調チェックのもと不調時の登校自粛とオンライン授業での対応などを行い、感染防止に努めた。感染者や濃厚接触者が生じた場合も学内での感染拡大やクラスター発生には至らず、オンライン授業にて対応した。
今後とも感染防止策の継続が望まれ、防災・危機管理マニュアルについては感染症防止マニュアルの更新を行う。

臨床教育環境について

⇒臨床実習受け入れ先である関東地区のカマチグループ病院と実習の受け入れや感染防止について協議を重ねて、状況に応じて可能な範囲で臨床実習を実施。今後も病院の状況や判断と学校の確認で柔軟に対応していく体制が構築されている。

小項目　Ⅵ－1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：設備、教材、図書等は基準以上で、年度毎に確認、整備を行っている。

小項目　Ⅵ－2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：コロナウイルス対策でも産学連携を結ぶグループ法人の病院と検討・調整を行ない、臨地での臨床教育ならびに臨床思考を学ぶ体制を整備、工夫している。

小項目　Ⅵ－3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価：B　　■学校関係者評価：適正

■コメント：コロナウイルス対策により、避難含む総合訓練は防災教育に変更。防災・危機管理マニュアルは、感染症に関する内容を更新して、周知を図る。

項目Ⅶ　学生の受け入れ、募集

総括

コロナウイルス対策のために対面で情報提供する機会は減少したが、受験者や高等学校への進路・キャリア情報の提供に努めて、入学定員を満たす学生の受け入れを継続している。

課題

ウェブサイトやオンラインでも十分な情報提供を行っていく。

今後の方向性、方策など

高等学校へ入学後の修学状況の報告など、随時、的確な情報の伝達を行う。また、高等学校の進路・キャリア支援の状況を把握して、より連携を深めていく。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学生募集では入学予定者の辞退が全学科・コースでほとんどなく、進路を理解して入学を決めて、定員も満たす結果となっている。また、進路情報により理学療法・作業療法、学校に関する理解が得られたとの回答が多く、今後も継続が望まれる。

小項目　Ⅶ－1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：対面での機会は減少も、高校訪問に加えてwebサイトでの情報提供により連携を図り、指定校はじめ高校推薦入試の受験者が増加している。

小項目　Ⅶ－2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価：S　　■学校関係者評価：適正

■コメント：資格取得、就職状況、国家試験対策学習などの具体的内容や過年度実績なども公表し、オープンキャンパスや進学相談等で必ず説明を行っている。

項目Ⅷ　財務

総括

定員を満たす入学者のもと財務基盤は安定しており、年度および中長期の収支計画に従い事業推進、会計管理を行い、法人本部の確認のもとで適正な財務運営を行っている。

課題

安定した財政基盤の維持。

今後の方向性、方策など

財務基盤を安定させる入学者確保の継続。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

学校の財務基盤は安定しており、財務管理が適正に行われていることが理解できる。
学校法人の財務諸表もホームページで情報公開されている。

小項目　Ⅷ－1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：定員を満たす入学者により財政基盤は安定。学校法人本部で中長期的財政予測を行い、法人ならびに各校の財政基盤の安定を確認している。

小項目　Ⅷ－2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：年度事業計画・予算、収支計画のもとで予算執行、事業遂行、会計処理を行い、その妥当性を法人本部・学校の双方で随時確認している。

小項目　Ⅷ－3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：財務管理に関するチェックを随時行い、法人本部での稟議承認や定期的な会計管理、外部監査を実施している。

項目Ⅸ　法令等の遵守

総括

法令等を遵守した適正な学校運営を図り、第三者評価においても認められている。

課題

理学療法士・作業療法士養成施設指定規則改訂への対応。

今後の方向性、方策など

養成施設指定規則改訂に伴う臨床実習指導者の資格要件の確認、主たる実習地の登録など、臨床実習に関する教育体制をさらに充実させる。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

第三者評価の受審について

⇒理学・作業の両学科ともに一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の第三者評価を受審しており、5 年毎に更新を行っている。作業療法学科は世界作業療法士連盟の教育基準の認定更新も兼ねている。また毎年、自己点検・自己評価、学校関係者評価を行い、法令等の遵守を確認する機会となっており、次年度は職業実践専門課程のフォローアップ認定更新を予定している。

小項目　Ⅸ－1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：関係法令、理学療法士・作業療法士養成施設指定規則に準じて自己点検を行い、学校関係者評価、第三者評価で確認して、適正な運営を行っている。

小項目　Ⅸ－2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：個人情報保護規程に則り、情報は電磁的管理のもとで適正に運用を行っており、情報の漏洩は発生していない。学生に対しても、新入生への i-pad の配布時から個人情報やインターネットに関するリテラシー教育を行っている。

項目Ｘ　社会貢献・地域貢献

総括

コロナウイルス感染防止のため、多くの社会・地域貢献の機会が中止となったが、教員が障害者イベントの実行委員として参画するなど、可能な協力を継続して行っている。

課題

コロナウイルス感染防止の中での社会・地域貢献の検討。

今後の方向性、方策など

社会・地域貢献に関して、再開されるイベントへの対応、およびリモートやオンラインシステムの有効活用による貢献の在り方を検討する。

学校関係者評価委員会からの意見、質疑内容

コロナウイルスにより社会や地域での活動が制約を受ける中、理学療法士会・作業療法士会が行う臨床実習指導者講習会の会場提供やオンライン開催など、積極的に貢献していることが理解できる。この講習を受講していないと今後の臨床実習指導ができない状況にあり、学校による積極的な開催が望まれている。

小項目　Ｘ－1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：多くの機会が中止されたが、開催が必要な理学療法士・作業療法士臨床実習指導者講習会は会場やオンラインシステムの提供、講師派遣を行った。

小項目　Ｘ－2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価：Ｓ　　■学校関係者評価：適正

■コメント：地域の障害者イベントなどボランティアの機会は中止となったが、教員が実行委員として継続的に参画して、開催の可否や次年度の開催方策、ボランティア体制の検討などにリハビリ専門職としての提案や協力をすすめた。

3. 学校関係者評価の総括

1）自己評価の内容は適正である。

2）各評価項目の内容は適正に記載されている。

3）自己評価の内容は根拠資料から確認できる。

4）自己評価、学校関係者評価が学校運営に反映されている。

以上より、学校関係者評価において、自己評価ならびに学校運営は適正と評価する。

4. 学校運営に関する意見

理学療法士・作業療法士の養成施設として、職業実践専門課程認定校として、健全で充実した学校運営、教育活動、人材育成、およびその自己評価は適正と認められる。

コロナウイルス感染により学生の修学や進路に影響が出たケースもみられる中で、良好な学業成績、国家試験合格状況が認められ、状況に応じた適正な学校運営が行われていることが結果につながったと思われる。

評価において「若干の改善を要する（B 評価）」とされた、教育環境に関する項目Ⅵ-3 防災に対する体制整備については、防災・危機管理マニュアルの中で今般のコロナウイルスにより、感染症防止マニュアルの大幅な更新が求められているものである。

また、「達成している（A 評価）」とされた、教育活動に関するⅢ-3：授業評価、Ⅲ-5：教職員の資質向上、学修成果に関するⅣ-4：学生の社会的活動の 3 項目は、コロナウイルスの影響により十分な達成に至らなかったところがあるが、次年度に向けてはコロナにも対応した新たな方策での充分な達成を期待するものである。

全般的に適正かつ良好な学校運営が行われており、今後の継続が望まれる。

以上